

基準 10 . 社会連携

10 - 1 . 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

(1) 事実の説明 (現状)

10 - 1 - 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされているか。

・平成 12(2000)年の開学以来、本学は大学の物的・人的リソースを社会に提供している。平成 19(2007)年度には、市民カレッジ大学開放講座、講師派遣、人間環境大学公開講座、公開講演会、文化の集い、臨床心理相談室、発達障害児相談室、発達支援講座等心理分野における資源の提供、三河地域外への人的資源の提供、などの形で資源の提供を行った。以下、その概要を記す。

市民カレッジ大学開放講座

・岡崎市教育委員会との共催によるもので、開学以来、毎年、教員がその専門的立場から公開講座を行っている。対象は一般市民であり、おおむね、毎年 10 月から 12 月までの 3 ヶ月間にわたり、毎土曜日に実施している。これらの講演は録画され、当日参加できなかった方々のために地元ケーブルテレビ MICS で放映されている。

・平成 19(2007)年度は「日本人の心」を共通テーマとして日本語教育、景観文化論、日本の言語と文学、中国社会文化論、日本政治史、日本美術文化論の切り口から講演を行った。演題は、「女ことばは差別か」、「日本人と緑のこれから」、「萬葉集にみえる『故郷』」、「中国文学の受容パターン」、「近代日本と人種平等の理想」、「躍動する心～信貴山縁起絵巻にみる時空表現」であった。

講師派遣

・本学は、自治体や高校などさまざまな機関の要請に応じて講師を派遣している。

大学連携講座

・名古屋市生涯学習推進センターが大学等の高等教育機関に参加を呼びかけ、名古屋市内を会場として実施する講座で、本学も毎年講師を派遣している。

・平成 19(2007)年度は、「人間環境大学連携講座」と「大学連携シリーズ講座」に講師を派遣した。前者では、本学の心理学、宗教学、文学の教員 5 名が「悪」をテーマに 5 回の連続講座を行った。また、後者では、本学の裏千家正教授・茶道文化論担当教授が「茶どころ名古屋」という演題で講演を行った。

高校派遣プログラム

・本学では、全国の高校からの要請に応え、教員を派遣している。派遣の内容は、主として 2 種類ある。ひとつは、進路指導の一環として生徒や父母を対象として行われる模擬講義や進路ガイダンスである。

・模擬講義は、高校生に大学の専門の学問について触れてもらうことを目的としている。もうひとつは、高校が求めるテーマで本学の教員が講演を行うものである。平成 19(2007)年度の模擬講義・進路ガイダンスおよび講演の派遣は、表 10 - 1 - 1、表 10 - 1 - 2 のとおりである。

その他の講師派遣

・上記プログラム以外に、さまざまな機関や各種団体などの要請に応じて教員を講師として派遣している。平成 19(2007)年度の派遣は表 10 - 1 - 3 のとおりである。

表 10 - 1 - 1 模擬講義・進路ガイダンス

内容	派遣先高等学校
「クイズで考える歴史資料」	(私立)豊橋中央高等学校
「森という不思議な環境 森林の生態学」	(私立)藤枝順心高等学校
「人間環境について」	愛知県立旭陵高等学校
「社会問題を解決するのはなぜ難しいのか? - 地球温暖化問題を事例として -」	三重県立鳥羽高等学校
「人文科学を学ぶとは」	静岡県立二俣高等学校
「大学で学ぶ心理学」	愛知県立明和高等学校
「農学・生命・バイオ・水産」系統説明	静岡県立富士宮北高等学校
「自然環境」系統説明	静岡県立磐田農業高等学校
「農・獣医・畜産」系統別説明	(私立)静岡県富士見高等学校
「心理学と臨床心理学の違い」	愛知県立三好高等学校
	静岡県立川根高等学校
文科系の仕事について	愛知県立高浜高等学校
進路ガイダンス	愛知県立田口高等学校
	(私立)藤枝順心高等学校
	愛知県立渥美農業高等学校
進学相談会	(私立)ウィザス高等学校名古屋キャンパス
	(私立)栄徳高等学校
父母対象進路説明会	人間環境大学岡崎学園高等学校

表 10 - 1 - 2 高等学校への講師派遣(講演)

演題	派遣先高等学校
「生きるということ」	静岡県立富士宮西高等学校
「何のために学ぶのか」	静岡県立沼津商業高等学校
「環境問題と企業経営」	富士市立吉原商業高等学校
「建築の語りかけるもの」	長野県岡谷南高等学校
循環型社会の現状と展望	愛知県立岡崎高等学校
森が水をつくる 森林と豊川および矢作川の水質	愛知県立鶴城丘高等学校
水俣病を振り返って 公害問題と裁判	愛知県立一宮興道高等学校

表10-1-3 その他の講師派遣

演題	派遣先
「うつ病：家族の接し方」	岡崎市保健所
「LD、ADHD、アスペルガー児童への対処」 (現職者研修)	岡崎市立竜谷小学校
「三河湾の浄化」	三河湾浄化推進協議会
「日本の美学と環境」	岡崎市学区社会教育委員長連絡協議会
「地球温暖化と人間の関係」	愛知教育大学附属岡崎中学校
「発達障害児についての理解と指導法」	岡崎市立上地小学校
「発達に障害のある子どもさんの理解と関わり」	岡崎市福祉事業団 福祉の村

人間環境大学公開講座

- ・本学は、小規模ながら社会人にとって広く有意義な講義を揃えている。これらの講義科目の中から 58 講座を公開し、社会一般の方々が聴講できるようにしている。公開講座には、竹工・木工、茶道、華道の実習もあり、これら実習科目では、京都伝統工芸士、裏千家正教授、池坊研修学院教授などその分野の専門家が指導にあたっている。

公開講演会

- ・本学は、開学以来、本学教員の所属する学会や各種団体などの講演会、シンポジウム、フォーラムなどさまざまな形態の講演会を開催し、学外の一般市民に広く積極的に公開してきている。
- ・これまでの主な講演テーマは、「電力自由化と環境・経済・経営」、「戦前日本の政治と軍事」、「日本の心・文化・自然」、「ジャストインタイムの思想 トヨタ生産方式」、「美しい日本をとりもどそう」、「森の文明と砂漠の文明」、「人間はどういう動物か」、「トヨタのグローバル化」、「トヨタ生産方式から生産へ『仕事をする』誇りと環境に役立つものづくり」、「環境問題と政治・経済・社会」、「環境の哲学と社会的合意形成」、「心と技 金メダリスト輩出の裏舞台」と広範囲にわたっている。
- ・平成 19(2007)年度には、「環境と“茶の心”」という演題で、本学客員教授でもある茶道裏千家第 15 代家元・千玄室大宗匠による人間環境大学文化講演会を行い、学外からも大勢の受講者が集まり、茶道の精神の中に見る「和」の心、深さを学んだ。

文化の集い

- ・本学は、文化・芸術上の催し物、映画上映会などを学外の一般市民に広く積極的に公開する形で行っている。
- ・芸術文化の催しとしては、これまで能楽師による「能の話と仕舞」、「薪能」、「筑前琵琶」、「華道家元池坊礼式生け」などを行ってきた。
- ・『木を植えた人』を聴く」会は、平成 16(2004)年度より毎年開催しており、平成 19(2007)年度は第 4 回を実施した。4 回連続参加の市民も数多く見られるなど好評である。

- ・映画上映会も映画館のない地域に貴重な機会を提供している。平成 19(2007)年度映画上映会は、より多く学外からの参加者に機会を提供するために大学祭の最終日に実施し、「ホワイトプラネット」を上映した。

臨床心理教育相談室の開設

- ・本学は、臨床心理士の資格を持つ教員が広く一般の子育ての悩みや不登校などの教育上の相談に応じる有料の臨床心理相談室と、指導教員のもとに、心理専攻の大学院生が発達障害児の療育にあたる無料の相談室「ポピー教室」をキャンパス内に開設している。
- ・臨床心理相談室は、平成 13(2001)年 5 月開設であり、幼児から小学生までの子どもと、その保護者を対象としている。「ポピー教室」では、子育ての問題などを教員、大学院生が母親と共に考える活動をしている。

三河地域外への人的資源の提供

- ・本学は、岡崎市を中心とした地域だけでなく、県外へも広く人的資源の提供を積極的に行っている。平成 19(2007)年度の実績は表 10 - 1 - 4 のとおりである。

表 10 - 1 - 4 三河地域外への人的資源の提供

資源提供先機関	内容
多治見市役所 環境課	多治見市新火葬場建設候補地選定委員会委員
自然科学研究機構核融合科学研究所	核融合科学研究所重水素実験安全評価委員会委員
埼玉県環境部温暖化対策課	埼玉県環境マネジメントシステム評価委員会委員
大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所	委員 (3名)
名古屋市子ども青少年局	名古屋市障害児保育巡回指導員
三重県教育委員会	文化財保護審議委員
国立国語研究所	日本語教育論集編集委員
独立行政法人大学入試センター	教科科目第一委員会委員

(2) 10 - 1の自己評価

- ・本学は、開学当初から一貫して開かれた大学を志向し、学外からの要請を受けて、広く人的資源を社会に提供する努力をしてきた。また、本学独自で企画立案した広範な文化活動も広く学外に公開してきた。これらの活動に対する評価は、年を追う毎に要請の数が増えるなどおおむね好評である。
- ・本学キャンパスで行われる「公開講座」、「文化の集い」、講演会等は、名古屋中心市街地から離れた地域における本格的な学びの機会として近隣住民におおいに感謝されている。「公開講座」には、工作上必要な最新の専門的知識を求めて受講する社会人も増え、特定のテーマの継続を求められることも度々ある。また、臨床心理教育相談室は、子育ての悩みを持つ多くの親にとって救いの場となっている。無料のポピー教室には、近隣に住む外国籍の親子も相談に訪れるなど、対象者の層も広がっている。

(3) 10 - 1の改善・向上方策(将来計画)

- ・ 本学は、教員の物理的条件が許す限り、人的資源の要請に応えていく姿勢を表明している。今後も、学内において開催する催しや集いを可能な限り継続し、広く一般にも開放、公開していく方針である。
- ・ 本学は小規模校であり、教員数が限られる中での人的資源の提供は教職員のかかりの負担を伴うものである。大学の改革・改善に向けてひとりひとりの教員に課される仕事量は増加の一途を辿っている。このような現状の中で改善策を実行することは、教職員の負荷過剰につながりかねない。限られたリソースでいかに社会貢献のための活動の維持・拡充を図り実践していくか、タイムリーにその活動を把握し、負荷を分散させる仕組みを考案したい。

10 - 2 . 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

(1) 事実の説明 (現状)

10 - 2 - 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

岡崎大学懇話会

- ・ 本学が位置する岡崎市は、歴史的に産官学の協調活動の先例がなく、地域経済活性化の起爆剤ともなり得る新しい知識、情報、技術に対する積極的導入体制の整備が遅れていた。そこで平成9(1997)年11月に市内に位置する当時の4つの大学、すなわち、岡崎女子短期大学、愛知学泉大学、愛知産業大学および岡崎学園国際短期大学(本学の前身)が、岡崎市およびこれに同調するNPOなどと連携して岡崎大学懇話会を設立し、その活動を支援する世話役として岡崎商工会議所があたることとなった。その後、岡崎学園国際短期大学は本学へと発展的に解消されて今日に至っている。
- ・ 本会は、4大学の学長が輪番制で務める会長と、複数の顧問(現在は岡崎市長と岡崎商工会議所会頭)、理事(4大学の学長)、代表幹事(各大学から1名)、幹事若干名(事業活動を行う各部会の必要に応じて設けられる)および監事1名によって構成され、理事会で承認された事業活動を執行することになっている。その主たる目的は、産官学の協同活動によって地域活性化を行うことにある。
- ・ 本学は、岡崎大学懇話会を通じて、地域活性化フォーラム、『地域活性化研究』編集委員会、人材データベース公開、サテライトオフィス大学開放講座、「岡崎学」講座、大学連携セミナー、学生フォーラム、その他、の産官学協同の活動を実践している。各々の活動内容を次に示す。

地域活性化フォーラム

- ・ 各大学の教員が、地域活性化に関連したテーマで企業と合同で、または企業の要望に応える形で研究助成を受けて研究を行い、その成果を公表し、企業や行政に積極的にその成果を利用してもらうことを目的としている。本フォーラムは一般公開の形で発表され、報告および論文は、研究冊子『地域活性化研究』に掲載される。
- ・ 本学は、平成13(2001)年度より本フォーラムに参加し、災害問題、ごみ問題、まちづくり、観光、発達障害児療育など、環境学、経済学、経営学、都市創造、社会学、心理学、教育学など広い分野の研究により地域の活性化に協力してきた。平成19(2007)年度参加の本学教員の研究テーマは、「岡崎市六供町街並み調査」であった。

『地域活性化研究』編集

- ・上記 に記した地域活性化研究の成果は、冊子『地域活性化研究』として刊行され一般に公開されるが、本学はその編集委員および査読委員として編集に関わっている。

人材データベース公開

- ・本学は、岡崎大学懇話会の人材データベース公開の企画に賛同し、教員の専門分野、研究活動の内容を公開している。このデータベースは広く企業や行政に周知され、地域活性化の諸活動に利用されている。現在、このデータベースに登録されている研究者は、参加している他の3大学を含めて約120名であるが、利用者の便宜を図って、所属別、50音順、専門分野別、支援可能項目別にまとめられている。平成14(2002)年度には、データはデジタル化され、近年利用頻度はますます高くなっている。

サテライトオフィス大学開放講座

- ・岡崎市においても、近年景気の後退とともに中心市街オフィスビルに空床化が起こっている。岡崎大学懇話会では、テナントの撤退によって生じた中心街商業地区ビルの空きスペースを大学のサテライトオフィスとし、地域社会、生涯教育に貢献するための拠点として利用することを企画し、本学もこれに積極的に協力している。
- ・本学の心理系教員は、このサテライトオフィスにおいて講演会を開催するだけでなく、平成17(2005)年度からは発達障害児対象の「無料療育相談事業」を開始し現在に至っている。この相談室は、親に対する「相談室」に子どもを対象とした「ポピー教室」が併設されたもので、発達障害をもつ子どもの療育支援活動を展開している。相談室は本学の心理系の教員が、「ポピー教室」は大学院生が対応し毎週1回開かれている。市街地のビルの中にあり、買い物ついでに気軽に立ち寄れるためか、開設以来多くの母子が訪れている。管理事務所の人の「相談室から出てき親子は、入室前と比べみな顔が明るくなっている」という感想からも、この相談室が利用者ひとりひとりに有意義なものとなっていることが推察できる。
- ・本学は、この心理相談室の他、環境学、都市創造学、文明論など幅広い領域にわたる講演や展示パネル展、「親子ふれあい教室 リサイクル教室」、「バルーンアート教室」などのワークショップを通して知的財産の提供を行っている。平成19(2007)年度は、「森林と環境」と題する本学教員による講演、及び「外国人との共生を考える」と題した学生による発表を行った。後者の発表は、本学の学生と台湾の大学生が豊田市および岡崎市をフィールドとして共同で行った調査研究の成果を公開で発表したものである。

「岡崎学～岡崎を考える」講座

- ・本講座は、岡崎の文化・産業・教育など幅広い分野を取り上げ、産・官・学・民で岡崎についての理解を深め、岡崎を見つめなおすことで岡崎の良さを再発見し、地域文化の創造、地域の活性化および市民のアイデンティティの形成に寄与することを目的とし、年8回の講演会を催している。講演の内容は、講演録として広く配布している。
- ・平成19(2007)年度には、本学は第7回目を担当し、「都市の風格、岡崎の風景～中心市街地の活性化を目指して～」という演題で講演を行った。

大学連携セミナー

- ・岡崎大学懇話会は、平成19(2007)年度より主として企業関係者を主な受講対象としたセミナーをスタートさせた。初年度は、「コミュニケーション」をキーワードに所属4大学より各1名の教員が講演した。本学は、「人間関係の発展とコミュニケーション」とい

う演題で、近年企業共通の悩みとなっている社内のコミュニケーションについて講演を行った。講演後多くの質問が出され質疑応答の時間に収まらないほどであった。

学生フォーラム

- ・これまで大学内でのみまとめられ、学外にはほとんど公表されてこなかった学生活動の成果を広く一般に公開し、その成果を地域活性化にも役立てようという目的で企画、実施したもので、平成 12(2000)年より活動を開始した。市内 4 大学の学生が主体となって活動し、教員がオブザーバーとして支援するという体制が特徴である。これまでに本学からは、ごみ問題、まちおこし、街づくり、祭り、街の活性化に直結するテーマに関する調査、研究、活動の報告が行われ、岡崎市長賞などを受賞している。
- ・平成 19(2007)年度は、都市計画論コースの学生による「小道の景に誘われて・・・岡崎市六供町街並み調査 / 中間報告」、日本歴史コースの学生の「松平元康のリスクマネジメント～意思決定のプロセス～」の 2 つの研究発表を行った。

その他

- ・上記のほか、平成 19(2007)年度にスタートした「岡崎ものづくり推進協議会」主催の「ものづくり岡崎フェア 2008 未来を拓くイノベーション創出に向けて」では、本学がその特性を活かして地域の課題解決に向けて様々な活動をしていることを示すパネルを出展し、産官学連携の推進に協力をした。

愛知県外の大学、機関等との連携

「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会」への参画

- ・本研究会は、三河・遠州・南信州にある大学と地域の公共団体等とが連携し、地域の諸課題解決に向けた持続可能な「地域づくり戦略プラン」の導入手法を構築し、自律した地域づくりに不可欠な「人材育成・意識啓発アクションプログラム」の開発に取り組み、県境を跨ぐ三遠南信地域の地域づくりに貢献するとともに、産官学民が連携・協働で取り組む地域づくりモデルとして全国へ発信することを目的として設立された。本学は平成 19(2007)年度より第 3 番目の幹事校としてこの研究会に参画することになり、特に生態環境部会で活動する他に事業費の一部も分担している。

「森林とびわ湖研究会」

- ・この研究会は、人間環境大学と京都大学、滋賀県立大学の研究室が共同で取り組んでいるものである。本研究会による「森林の水環境保全機能の調査」は、滋賀県からの委託を受けて平成 16(2004)年度から開始している。

(2) 10 - 2 の自己評価

- ・本学はこれまでさまざまな形で地域の企業や他大学との連携はもとより、市内大学と連携して一般市民、企業を対象とした啓蒙活動、支援事業を展開してきた。ただ、本学が多くの活動に参加する「岡崎大学懇話会」は、その経済的なサポートを市からの援助に頼っていることから、活動内容すべてが市の財政方針によって大きな影響を受けかねないという問題点がある。今後市の財政に頼らない形で、企業、大学間協働体制の構築に努めていく必要がある。
- ・愛知県、静岡県、長野県の県境を跨いだ連携プログラム「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会」における活動や、京都大学、滋賀県立大学との共同研究「森林とびわ

湖研究会」は、県境をまたぐダイナミックな研究である。開始後日が浅いが、今後意義深い連携活動が期待できる。

(3) 10 - 2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・平成 20(2008)年度は本学が「岡崎大学懇話会」の幹事校となる。地元岡崎の発展に向けて本連携プロジェクトをより一層充実した活動にするために、これまで以上に、社会に貢献する会のあり方、活動内容の検討、事業の遂行等において中心的な役割を担っていくことになる。また、地元三河地区外との連携や三河地域以外の大学や諸機関との連携も積極的に進めて行きたいと考えている。

10 - 3 . 大学と地域社会との協力関係が構築されていること。

(1) 事実の説明（現状）

10 - 3 - 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。

- ・本学は大きく 2 つの方法で地域社会と協力関係を構築している。1 つは、岡崎市及びその周辺の自治体や各種非営利団体の各種委員会委員やアドバイザーという形による行政への支援であり、2 つ目は学生主体の地域との連携活動である。

地域自治体へのアドバイザー等

- ・本学の多くの教員は、その専門分野における経験と見識に基づいて、地方自治体や各種非営利団体から、専門委員を委嘱されており、それぞれが専門の立場から貢献している。
- ・岡崎市の行政とは、特に密接な連携が構築されており、市役所の各課の企画に委員として参画する、あるいは行政アドバイザーとして専門的な立場から助言するなどの活動を展開している。
- ・平成 19(2007)年度の活動は、表 10 - 3 - 1 に示すとおりである。

表 10 - 3 - 1 地域社会との連携および活動内容

団体名	委嘱内容
岡崎市入札監査委員会	委員
岡崎市建築審査委員会	委員
岡崎市総合計画審議会	委員
岡崎市街地活性化協議会	委員
岡崎市環境部	岡崎市新一般廃棄物中間処理施設建設審議会委員
岡崎市企画政策部政策推進拠点企画班	岡崎市中心市街地活性化協議会委員
岡崎市企画政策部企画課	岡崎市総合計画審議会委員
岡崎市総務部契約課入札班	岡崎入札監査委員会委員
岡崎市保健所	精神保健福祉相談担当医師
岡崎市政策推進課	下山学区の住民に対し街づくりについて意識改革を促す内容での講演会 講師 2 名派遣

地域との連携活動

「岡崎城下町都心再生協議会」

- ・商店街の人たち、企業の経営者や学生が集まり結成した会である。本学の「地域・都市計画論」ゼミの教員と学生が参加し、まちのことをみんなで考える活動をしている。

「21世紀まちづくり研究所（通称：まちけん）」

- ・平成 18(2006)年に市中心部の空洞化したショッピングセンターの空きフロアーに開設された「21世紀まちづくり研究所（通称：まちけん）」は、岡崎市にある4つの大学の学生が共同で活動する拠点となっている。
- ・上記の活動を通して 1)中心市街地活性化と大学の研究活動を結び合わせる、2)学生主導のネットワークの組織化、3)市民の行動力・活動力と大学の実践力を鍛えるなどの活動が行われている。

「岡崎コミュニティデザインリーグ」

- ・平成 18(2006)年度より岡崎コミュニティデザインリーグ実行委員会を設立し、調査研究をふまえたまちづくりの提案をグループで発表し、公開審査の上で今後の中心市街地活性化に役立つ提案のグランプリを決定する大会「岡崎コミュニティデザインリーグ」を開催している。この大会は、建築士会、企業、市民大学、工業専門学校、NPO、大学、青年会議所、商工会議所など文字通り産・官・学・民が主催、協賛、後援などで協力している。
- ・平成 19(2007)年度においても「岡崎コミュニティデザインリーグ 2007」と題した大会を行い、本学教員・学生チームが参加した。

「学校インターンシップ」

- ・人間環境大学は、平成 19(2007)年度に岡崎市立東海中学校と「学校インターンシップ」の協定を結んだ。大学生にとって、高校、中小学校等における就業体験となるこの制度は、受け入れ校にとっては学校現場を活性化する取り組みとなる。初年度は、教職を目指す9名が文化祭、耐寒駆け足、マラソン大会、道徳・総合的な学習研修、中学校で実施された岡崎養護学校との交流会など計9回の行事に参加し諸作業の補助などを行った。ぬかるんだ運動場の整備や行き帰りの安全支援などさまざまな活動における本学学生の活躍ぶりは、東海中学校の教務通信「やまびこ」に詳しく掲載されている（資料編 資料 10-3 参照）。

おかざき障害児発達支援研究会

- ・平成 16(2004)年度に本学心理学の教授が中心となり、市内の医師、保育士、保健師、病院職員、幼稚園教諭、小学校教諭、専門施設の職員、大学院生、卒業生などを構成員とする研究会として発足した。1、2ヶ月に1回程度、市中心部のショッピングセンター内の一室で研究会を続けている。
- ・平成 19(2007)年には、人間環境大学主催、本研究会共催で保育や教育現場で発達障害児の指導にあたっている人たちを対象とした「発達支援講座 発達に障害のあるこどものアセスメントと指導：心理・発達検査の利用と応用」を3日間にわたって開催した。保育士、保健師、病院職員、幼稚園教諭、小学校教諭、専門施設の職員、医師、保護者などのさまざまな職種から百十余名の参加があった。

その他 教員および学生によるボランティア活動

- ・本学周辺の市町村において、本学の学生は、清掃活動や町おこしのイベント支援などに

これまで自発的に参加し、活躍してきている。大学側も情報提供や募集、連絡などを行う、また教員が顧問やアドバイザーとなるなどの形で学生の活動をサポートしている。体育系クラブのみならず文科系クラブの教員や学生が自治体の祭りやイベントの企画や支援の活動を展開している。

- ・平成 19(2007)年度からは、本学学生の発案になる案を市の IT 推進課が採用し実践することになった。「IT 教室」は、できるだけ多くの市民が行政のインターネットによるサービスを楽しむように、IT 弱者対象に開くパソコン操作方法指導教室であり、本学の学生ボランティアもその指導にあっている。
- ・エコアクト・サークルは、地域の祭りやイベントに参加し資源循環型社会にむけた啓蒙活動を展開している。平成 19(2007)年度は、「ごみ分別」だけでなく市内で催される祭りで手作りの「my 箸袋・my 布ナプキン」を販売し、「ごみ減量」を提案している。本サークルは、一昨年の全国大会でサークル活動の研究発表をし、最優秀賞を獲得している。また、本サークルのメンバー数人は、NGO「全国青年環境連盟(エコ・リーグ)」にも参画し、「マネジメント・サポート」、「キャリア・サポート」、「ネットワーク・サポート」、「インターナショナル・サポート」などの広範な企画に積極的に関わっている。
- ・「ものづくり研究会」は、地域で伝統的のものづくりをしている職人を取材し、それを情報誌やインターネットを通じて記録・発信していく活動を展開している。
- ・その他、地域の子どもたちが参加できるキャンプを企画・実行するサークルなど、多くの学生サークルが地域に入り込みさまざまな活動を展開している。

(2) 10 - 3 の自己評価

- ・設立から約 10 年を経て、地域とのネットワークはかなり構築され、大学と地域がさまざまな場面で接点を持つようになってきている。実際、岡崎市行政アドバイザーは、1 ヶ月平均 2、3 件の割合で要請が出されそれに応じて適任者が任務にあっている。学生も、サークル単位、個人単位でさまざまなボランティア活動に参加している。本学の学園祭を地元の小学校児童や周辺の住民が心待ちにしていることも、本学が地元社会の主たるメンバーとして認められていることを伺わせるものである。

(3) 10 - 3 の改善・向上方策(将来計画)

- ・今後も本学の教員および学生に地域から協力を要請されることは多いと予想されるが、その要望に可能なかぎり応えていきたい。また、岡崎大学懇話会や自治体の諮問委員会等を通じて、積極的に提案を行い地域の活性化に貢献していきたいと考えている。
- ・学生のボランティア活動にあっては、外部の機関や他大学との連携も構築されつつあり、ウェブ上で情報を得て個人的に参加する者も増えている。大学側も教員や学生による意義ある活動に向けたサポートをさらに充実させていきたい。

[基準 10 の自己評価]

- ・本学は、開学当初から一貫して開かれた大学を志向し、学外からの要請を受けて、広く人的資源を社会に提供する努力をしてきた。
- ・本学はこれまでさまざまな形で地域の企業や他大学との連携はもとより、市内大学と連

携して一般市民、企業を対象とした啓蒙活動、支援事業を展開してきた。

- ・愛知県、静岡県、長野県の県境を跨いだ連携プログラム「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会」や、京都大学、滋賀県立大学との共同研究「森林とびわ湖研究会」は、開始後日が浅いが、今後意義深い連携活動が期待できる。
- ・設立から約 10 年を経て、地域とのネットワークはかなり構築され、大学と地域がさまざまな場面で接点を持つようになってきている。

[基準 10 の改善・向上方策 (将来計画)]

- ・本学は小規模校であり、教員数が限られる中での人的資源の提供は、教職員のかかりの負担を伴うものである。限られたリソースでいかに社会貢献のための活動の維持・拡充を図り実践していくか、タイムリーにその活動を把握し、負荷を分散させる仕組みを構築したい。
- ・「岡崎大学懇話会」の活動を通じて、これまで以上に、地域社会に貢献する懇話会のあり方、活動内容の検討、事業の遂行等において中心的な役割を担っていきたい。また、地元三河地区外との連携や三河地域以外の大学や諸機関との連携も積極的に進めていきたい。
- ・今後も本学の教員および学生に地域から協力を要請されることは多いと予想されるが、その要望に可能なかぎり応えていきたい。
- ・学生のボランティア活動は、外部の機関や他大学との連携も構築されつつあり、ウェブ上で情報を得て個人的に参加する者も増えている。大学側も教員や学生による意義ある活動に向けたサポートをさらに充実させていきたい。